

ひきこもりの現状

■ こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）

- ・ひきこもり状態にある方
 - ：全国 約146万人
 - ：三重県 約 2万人（単純推計） **国民50人に1人の割合**



- ・過去調査におけるひきこもり状態にある方
 - ：全国 約115.4万人（H27年度・H30年度）
 - ：三重県 約 1.6万人
- ※調査が異なるため、単純比較はできないことに留意

・広義のひきこもり群の割合

・男女別割合

・ひきこもり状態になった理由として「新型コロナウイルスの流行」をあげた方の割合（複数回答）

	有効回答数に占める割合
15～39歳	2.05%
40～64歳	2.02%

	男性	女性
15～39歳	53.5%	45.1%
40～64歳	47.7%	52.3%

15～39歳	18.1%
40～64歳	19.8%

ひきこもり支援状況

■ 県のひきこもり相談窓口

三重県ひきこもり地域支援センター（平成25年開設）

- ・電話相談、来所相談、精神科医師による面接相談 等

■ 市町のひきこもり相談窓口等

（1）ひきこもりに関する相談窓口の明確化と周知

全29市町において相談窓口の明確化と周知済

（2）市町村プラットフォームの設置・運営

20市町で設置済

（3）支援対象者の実態やニーズの把握

18市町で実施済

■ 市町のひきこもり地域支援センター等運営状況

（1）ひきこもり地域支援センター事業 3市

相談支援・居場所・ネットワーク・当事者会/家族会・住民への普及啓発 等

（2）ひきこもり地域支援ステーション事業 2市

相談支援・居場所・ネットワーク 等

（3）ひきこもりサポート事業 4町

相談支援等の任意事業

■ 重層的支援体制整備事業・移行準備事業実施市町（R3年度～）

重層的支援体制整備事業 11市町

移行準備事業 2市町

計画目標の進捗状況

計画全体の目標

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績	6年度 目標値
「ひきこもりに関する理解が進んだ」と感じる県民の割合(※1)	—	87%(※3)	70%
「ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が進んでいる」と考える相談支援機関の割合(※2)	—	37%(※4)	70%

※1 ひきこもり支援フォーラムに参加した県民の皆さんを対象にしたアンケート調査において、ひきこもりに関する理解が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合。

※2 ひきこもりに関する支援機関を対象にしたアンケート調査において、ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合。

※3 令和4年4月16日開催のフォーラムでは、「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が82.8%、令和4年8月27日開催のフォーラムでは、「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が91.7%で2回のフォーラムの平均値87%を算出。

※4 ひきこもりに関する支援機関315機関を対象にしたアンケート調査において、ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合37%を算出。

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

計画目標の進捗状況

6つの取組方向ごとの目標(モニタリング指標)

取組方向1 情報発信・普及啓発

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績
ひきこもり支援に関する講演会等への参加者数	—	382人(4月) 420人(8月)
SNSアカウントにおける投稿件数	—	215件

取組方向2 対象者の状況把握・早期対応

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績
市町における相談窓口の明確化・周知および市町プラットフォームの設置・運営数	相談窓口21市町 プラットフォーム19市町	相談窓口29市町 プラットフォーム20市町
相談支援機関における新規相談件数	—	1,338件
不登校児童生徒が、学校内外の機関等での相談・指導等を受けた割合	小学生 72.9% 中学生 63.2% 高校生 58.0% (2年度)	—

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

取組方向3 家族支援

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績
三重県ひきこもり地域支援センターにおける専門相談件数(延べ)	275件 (2年度)	368件
家族教室への参加者数(延べ)	42人 (2年度)	56人

取組方向4 当事者支援

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績
三重県ひきこもり地域支援センターにおける多職種連携チームによる支援件数	—	17件
アウトリーチ支援員による面談・訪問・同行支援件数(延べ) (三重県生活相談支援センター)	127件 (3年12月)	237件
不登校支援アドバイザー等による訪問型支援を実施した人数および実施回数	22人 134回 (2年度)	87人 303回

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

取組方向5 社会参加・活躍支援

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績
ひきこもり当事者のための居場所数	24か所	42か所
子どもの居場所数	78か所 (3年12月)	135か所
民間施設(フリースクール等)が行う体験活動への支援回数	17回 (3年12月)	76回
地域若者サポートステーションにおける相談件数	6,518件 (2年度)	5,960件

取組方向6 多様な担い手の育成・確保

目標項目	現状値 (3年度)	4年度 実績
相談支援包括化推進員養成数	56人 (2年度)	33人
ひきこもりサポーター制度の創設	—	調査検討

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

計画の基本的な考え方

将来のめざす社会像

誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会

3年後の目標（めざす姿）

県民の皆さんのひきこもりに関する正しい理解を促進し、当事者・家族・社会の“つながり”の回復に向けて、当事者やその家族に寄り添った支援体制づくりを進めることにより、ひきこもり支援に関する社会全体の機運が醸成されています。

論点1

- 目標の進捗状況
- 継続すべき観点
- 追加すべき観点

令和4年度

令和5年度

令和6年度（案）

正しい理解の促進

ひきこもり支援フォーラムの開催

ひきこもり講演会の開催

ひきこもり支援ハンドブックの作成

安心サポートLINEにおける情報発信

等

ひきこもり支援フォーラムの開催

ひきこもり講演会の開催

ひきこもり支援ハンドブック普及啓発

医療従事者・民間事業者等向けセミナーの開催

安心サポートLINEにおける情報発信

等

ひきこもり支援フォーラムの開催

ひきこもり講演会の開催

ひきこもり支援ハンドブック普及啓発

当事者等への実態調査の実施

安心サポートLINEにおける情報発信

等

支援体制づくり

圏域別連携調整会議の開催

ひきこもり支援ネットワーク会議の開催

ひきこもり相談マニュアルの改訂

アウトリーチ支援の充実

支援者向け研修会の開催

相談支援包括化推進員の育成支援

等

圏域別連携調整会議の開催

ひきこもり支援ネットワーク会議の開催

支援体制整備の加速化推進補助金の交付

アウトリーチ支援の充実

居場所づくり応援アドバイザー派遣

相談支援包括化推進員の育成支援

等

圏域別連携調整・ネットワーク会議の開催

広域的支援体制強化事業

支援体制整備の加速化推進補助金の交付

アウトリーチ支援の充実

ひきこもり支援応援アドバイザー派遣

ひきこもりサポータースキルアップ研修

等

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

計画に基づいた取組

6つの取組方向でひきこもり支援施策を総合的に推進

1. 情報発信・普及啓発

- ・ひきこもり支援フォーラムの開催
- ・ひきこもり講演会の開催
- ・ひきこもり支援ハンドブックの作成・配布
- ・みえひきこもり安心サポートLINEの実施
- ・就職氷河期世代向けSNS等活用した情報発信 等

2. 対象者の状況把握 早期対応

- ・相談対応窓口の設置（全市町）
- ・ひきこもり支援連携調整会議の開催
- ・SC・SSWによる支援
- ・地域包括支援センター職員等への研修開催
- ・専門的な教育相談の実施 等

3. 家族支援

- ・家族への専門相談
- ・家族教室の開催
- ・家族会の開催 等

4. 当事者支援

- ・当事者への専門相談
- ・高校生対象の教育支援センターの設置・運営
- ・多職種連携チームによる支援
- ・アウトリーチによる面談・訪問・同行支援
- ・教育支援センターを核とした訪問型支援 等

5. 社会参加・活躍支援

- ・電子居場所の実施
- ・子どもの居場所づくり支援
- ・学校外での多様な学びの場の支援
- ・オンラインを活用した不登校児童生徒の居場所づくり
- ・農福連携による農業への就労促進
- ・多様で柔軟な働き方の推進
- ・就職氷河期世代を対象とした就労支援
- ・夜間学級体験教室「まなみえ」における支援 等

6. 多様な担い手の 育成・確保

- ・支援者向け研修会の開催
- ・支援ネットワーク会議の開催
- ・相談支援包括化推進員の育成支援
- ・教育支援センター指導員の育成研修 等

これまでの取組を踏まえた取組方向の進化

1. 情報発信・普及啓発

2. 対象者の状況把握 早期対応

3. 家族支援

4. 当事者支援

5. 社会参加・活躍支援

6. 多様な担い手の 育成・確保

論点2

- 追加すべき観点
- 組み換え・統合が必要な取組

将来のめざす社会像

誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」の策定スケジュール(案)

